

# 隠岐後鳥羽院和歌大賞

歌題 Ⅱ 後鳥羽上皇御遷幸八百年に寄せて

入賞

「古事記」一三〇〇年記念大賞

荒海の浦風渡る九重に玉章かけて雁鳴き渡る

千葉県船橋市

宿谷 睦夫

隠岐後鳥羽院和歌大賞

わひぬれて君か魂とふ八百年立てる白波通ふ潮かせ

東京都千代田区

山内 丈

選者賞 冷泉貴実子選

雲居まで思ひ届けと朝なさな黒木の森になくほととぎす

滋賀県大津市

山崎 昇

冷泉家時雨亭文庫賞

八百年時を重ねて大君の言の葉つむく隠岐の海かな

奈良県吉野郡吉野町

坂本佐代子

水無瀬神宮賞

やももとせ帝を祭り平らなり四方の海なみ千代の松風

島根県隠岐郡隠岐の島町

谷村美都子

出雲大社賞

八百年大君しのぶ隠岐の海に昔かはらぬ海士の漁火

京都府京都市左京区

上田 文

大阪天満宮賞

やももとせすみわたりたる大空に春は来ませり萌え出づる隠岐

福岡県春日市

岡嶋

玲宝

住吉大社賞

松わたる風やももとせおほきみのみこゑとおぼし海士の浦ゆく

島根県出雲市

花田

敦子

城南宮・鳥羽殿賞

夕月夜真野の入り江に汐や満つ浪に消え入る千鳥鳴く声

大分県国東市

原 ひろし

海士町長賞

波頭こえて飛び交ふ浜千鳥院の御姿さがすごとくに

熊本県八代市

葉山

高弘

隠岐ユネスコ世界ジオパーク賞

仰きみる杜影ふかき隠岐の島しつまりました経りし八百年

愛知県西尾市

並木

昌史

長崎県五島市長賞

大君の遷り給ひて八百年隠岐つ小島に寄せ返す波

東京都稲城市

徳植

弘幸

島根県雲南市教育長賞

なぐさむる和歌に困まれ仮り庵のおきし露にも月影さゆる

島根県松江市

宮内しな子

島根県益田市市長賞

八百年経ぬれとも今九重の風薫りゆく隠岐の荒磯

長崎県諫早市

芦塚

寿重

入選

大君の船を下りらる崎湊御腰掛之石松風そよぐ

雲居なす松山緑深みゆく隠岐の島ゆは九重の庭

子守唄がはりにひと夜鳴る海の音を聞きつつ眠らむとする

隠岐慕情帝無念や牛突きの角に託して八百年過ぐ

八百年の空の青さか我知らん寄せくる波は昔を知りて

ひたひたと草の葉揺らし寄る波は八百年経し隠岐に変はらず

大君の守りし島よ隠岐の島令和の御世も見守り給へ

夕方の隠岐神殿に陽の差してたゆたいながら黒揚羽舞ふ

八百年初じめて知った和歌の道遠き昔とつながる明日

大君の蛙御歌ゆ八百年隠岐の松風思ひ増すとも

たふとかる御身ゆゑなるかなしみの隠岐のしほかぜかへすなみおと

お手形の残る霊屋に吹く風ややももとせたつ今も悲しき

八百年ねむり給へる後鳥羽院守り給へよ隠岐の白波

桜花われ惜しめども散りはてぬ梢をゆらす風の香かなし

上皇さまをあがめうやまう御心に支えられ続く八百年余り

九重によせてはかえし八百年海士の浜辺に波ぞさざめく

大君の行幸の絶へて八百年水無瀬のままの嵯峨の芹川

おほきみの隠岐を思へば風いづる舟とみがまふ沖の白波

広島県三次市 折口 浩三

広島県広島市南区 平越 玄頌

宮城県石巻市 大和 昭彦

大阪府大阪市城東区 後藤 憲之

長野県長野市 五味 竹子

長崎県大村市 佃 美智子

千葉県千葉市稲毛区 うめさわかよこ

千葉県松戸市 八木田義男

東京都大田区 清水 春美

北海道小樽市 高本 智宏

東京都世田谷区 足立 訓子

秋田県秋田市 野口千恵子

三重県伊勢市 澤村 節子

宮城県宮城郡松島町 遠山 勝雄

福岡県大野城市 泉谷 陽子

大阪府羽曳野市 凜 七星

大阪府高石市 浅野 敬一

神奈川県横須賀市 神奈川 榮一

さざれ石敷きつむ社にかしこまり仰けし桜のいましたけなは

隠岐島に配流の身となる大君をしのふ波間にゆるる漁り火

御垣守り衛士のたく火の海に映え隠岐の雲居に居ます大君

島守と隠岐に遷られ八百年揺るる灯影に帝を偲ぶ

想へども飽かぬ都の賑はひと行き交う人の浮かぶ面影

大君の玉敷きの庭苔生して社ぞ永和に島ぞ安らく

年月を御こころ込めてやまとうた閲し給へり海士なる院は

御垣守り衛士に劣らず潮焼けの面わを持てる島の男は

大君の荒磯に立ちて都べを偲ばれませし姿かなしも

思ひきや君か行幸の八百年歌こそ越えめ波のかけ橋

百敷のみそのふの花も夢みしや隠岐に遷られし帝のつきひ

後鳥羽院遺徳を偲び八百年牛突き和歌を今に繋げり

島人の今なほ君の居すと日々を重ねて八百年祝ぐ

八百年隠岐に息つく大和歌諸人挙り君を言祝く

上皇の残しし和歌のこころ根を受けつぎうとふ隠岐島人

八百年松の緑は色深きくもりなき世の隠岐の島かな

ひねもすを千鳥は島の砂浜の足跡波へ消されてゆかむ

八百年咲き誇りたる桃の花はやり病の世にこそ匂へ

波さはぐ隠岐の島々はるかなり雲居にまさるけふの月影

ときはなるはこやの山の八重桜千代にかさねて咲きそめにけり  
大君のおおぎ見ゆるはやももとせ雲居をはるか昇る望月

群馬県伊勢崎市

野口 弘

兵庫県川西市

林田 幸子

滋賀県彦根市

松岡 寿子

北海道札幌市手稲区

西井 健治

大阪府富田林市

増谷 俊一

千葉県船橋市

水崎野里子

島根県雲南市

西 基宜

埼玉県所沢市

若山 巖

熊本県八代市

吉野 佳子

京都府京都市西京区

服部満千子

神奈川県座間市

蓮見 孝子

三重県津市

奥山 功

大阪府吹田市

河邊 幸子

静岡県藤枝市

杉山ますゑ

山口県下関市

一柳登志子

京都府京都市上京区

桑原美記子

宮崎県小林市

永田タエ子

岐阜県中津川市

西尾 嘉浩

埼玉県比企郡嵐山町

橋本 良子

兵庫県明石市

齋藤 英昭

東京都町田市

小林和歌子

十五夜の変はらぬ月に絲竹の調へも恋ひし玉敷の庭

八百杉を照らしたまいし大君ぞ隱岐の社を月渡るらむ

物思ふわれはいとほし東の雲居に残せし歌のかずかず

御遷幸の帝を祀るみ社に御衣黄桜のさみどりの花

大君の九重の庭の松風も八百年寿ぎ清らにそよぐ

ぬばたまの小夜に参らん隱岐神社八百年経る紫紺の庭に

吾子のゐる佐渡はいつこや隱岐の海我か手浸せはかなたに通す

津の国の水無瀬の宮に立つ霧は吾が大皇の嘆きなるらし

後鳥羽院渡り給ひし八百年波あらぶれし日日を如何にと

島民ら八百年後も院に因み歌と牛突き受け継ぎてをり

やももとせ過ぎて帝の隱岐島今も無念の波の音する

玉敷の庭に出で立ち花愛づる後鳥羽上皇の御姿しのぶ

沈みゆく夕日に向い大君の背に哀しみの香り放ちて

争ふも術なきままの現世ににほひ忘るなも世のさくら

わがごとく物思ふときや大君が遷りし隱岐の波に泣くらむ

都への迎へ待ちたる八百年流人の島に荒ぶ波風

八百年帝慕ひて絶え無くに人等訪ふ隱岐のうみやま

よせかへる波に涙もすゝがれむやもとせ隱岐玉敷の庭

大君は隱岐のみ空を飛ぶ鳥に雲居の思ひ伝へてしかな

民がためいつか実らむ雅の穂隱岐に種まく歌会の日々  
歌心あらば届けよ都鳥雲居の遙か隱岐の恋歌

東京都調布市

石黒 悦子

千葉県匝瑳市

宇野とし子

愛知県刈谷市

近藤 圭介

大分県玖珠郡九重町

後藤 信子

宮崎県宮崎市

熱田 民恵

三重県伊勢市

伊藤 理恵

東京都国立市

中村 りん

東京都台東区

松村 太樹

山口県熊毛郡平生町

中村美重子

福岡県宗像市

新倉 正成

福岡県小郡市

永松 理和

千葉県香取郡神崎町

高橋はつ江

茨城県常総市

太田きみ子

香川県丸亀市

寒川 靖子

兵庫県加古川市

桜 朱 灯

東京都杉並区

岡崎 志昂

大阪府大阪市天王寺区

為近 艶子

東京都世田谷区

佐野 秀子

東京都新宿区

斉藤 典子

東京都新宿区

貞住 昌彦  
難波美枝子

百敷にいまさば愛づる雁が音を鄙にしあれば袖絞り聞く

海渡る松風のこゑ聞こえたる鳥の集ひし九重の庭

おわさねと御心受継く大君の隠岐の島内敷島の道

八百年おほきみります隠岐にして牛が角突く春は来にけり

おきのはまのまつかせのおといにしへにたちかへれとやみことはときく

遙かなる隠岐の島にも桜咲き九重の花思ひ出づるか

浮雲の心は隠岐へ逸れども老い経ぬる身の行くすべも無し

お茶室の松風の音をききながら思いを馳せる後鳥羽上皇

あしひきの隠岐の山々大君の袖濡らしけり暁の露

やはらかな優し風よす海士の里べ上皇さまの安らぎありて

八百年経してかわらぬ海の色小さき舟の旅路はるばる

波の音のとろく隠岐の夕霧にみそてぬらしてなけきましけむ

あはれ君ならはぬ磯の松の声に幾夜旅寝の袖濡らすらむ

京よりやももとせを経て大君のみ魂は海士に鎮まり賜ふや

隠岐の海と空の青きに抱かれし八百年旧る宮の跡問ふ

大原に鎮まりたまふ天皇の御霊拝みて隠岐を思へり

春来れは雲居に桜咲きぬらむ花のひとひら隠岐に吹き来よ

ぬばたまの黒木御所に夜はふけて雨にはばたくかりがね思ほゆ

荒波の隠岐島なるおほきみの幽けき暮らしはるか偲ばむ

ももしきの月のさやかに照り映ゆる琴の緒に露かかるところかな  
言の葉の花咲くありか示されし御跡を守る隠岐の島人

兵庫県西脇市

藤原 紘一

京都府京都市左京区

近藤 義江

大阪府大阪市福島区

足立 慶子

東京都杉並区

庭野 治男

東京都大田区

高嶋 韶光

神奈川県川崎市宮前区

横山 隆行

熊本県八代市

太江田 妙子

鳥取県境港市

市場 和子

山口県下松市

大木 正徳

福井県小浜市

平田 卿子

島根県松江市

日野 和久

大阪府堺市中区

石川 知子

栃木県宇都宮市

曾我 欣伸

鹿児島県鹿児島市

田中 司郎

兵庫県神戸市北区

中村球磨夫

東京都調布市

福島 千冬

佐賀県武雄市

淵 登代子

京都府城陽市

近藤 好廣

大分県豊後大野市

菊地 孝也

滋賀県彦根市

赤木 和代

茨城県つくば市

宮本 茂徳

静寂より鳥の声のみ憂き心和歌に言寄せ日々を送りぬ

こころなき風も昔をしのぶらむ八十島かけて匂ふたちばな

夕暮れて鳥鳴き渡る雁の露大君の御袖に宿る月影

はろぼると隠岐へ大君下り給ふ千重に隔てる荒磯海越え

五月雨の音なく烟る藪蔭に群れ咲く射干の花のしづけさ

島旅の船より見たる鵜は輝りて海石に群るる隠岐の外海

島守りよ疫病にまどふ民草に荒き波風鎮めさせたまへ

大君の遷りたまひて八百年今も変はらぬ青田風吹く

海神よ新島守の舟はいざ沖へ出で見る隠岐の島かげ

隠岐の海小夜の千鳥よ汝が鳴けば八十島かけて澄める月かな

衛士守る御苑生に立つ白雲に八百年ふる大君がうた

大君の御幸たましいし九重の隠岐の桜の花やかさねん

たからかな小鳥の囀りさえわたる萌ゆる若葉の九重の庭

芽吹きたる梅の若葉が朝日浴び風に揺れおり爪弾くように

大君のことの葉を継ぐ八百年春の霞に花咲き匂ふ

風さえて隠岐の海原なかむれは雲居の空へ渡る白鳥

諍ひの無き世とぞ思ふ花満ちて隠岐の山々淡き紅

都より風は遷りて八百年おもひを寄する隠岐の白波

はるばると遠流の島の隠岐に来て月日を今に島の愛知る

沖つ島へ御遷りたまひし大君のみあと辿りて波の間を行く

大君か隠岐を寄る辺と八百年波の音にそ衛士数へ来し

大阪府大阪市北区

家治 綾子

広島県東広島市

河上 律子

千葉県船橋市

宿谷 政枝

滋賀県大津市

船岡 房公

大分県大分市

長畑 孝典

福岡県福津市

阿部 明美

岐阜県可児市

三田村 広隆

島根県隠岐郡海士町

永海 尚二

長野県上高井郡小布施町

池田 憲治

島根県隠岐郡海士町

夕 風

東京都世田谷区

知 実

大阪府交野市

大山 虎治

熊本県荒尾市

石橋 和枝

東京都江戸川区

小川 亘

京都府京都市下京区

吉尾 薫

兵庫県神戸市垂水区

西村 資子

京都府宇治市

濱岡 学

青森県八戸市

木立 徹

埼玉県所沢市

志村 美好

佐賀県西松浦郡有田町

廣澤益次郎

兵庫県西宮市

時岡くらま

夏の夜の沖のつり舟あかあかと衛士の焚く火に今宵見ゆらん  
やすらげき世の常おもひ八百歳隠岐の社に鳴くほととぎす

水無瀬なる里訪れて眺むれば山本かすみ上皇思ほゆ

冬越へし梅のかをりの八百年歌のこころを守る潮風

大君の心おもひて八百年かわらず香る隠岐の潮風

八百年新島守にうちとけて歌声あはす荒き波風

八百年のちの今宵も色変へぬ松にかかれる月影明かし

御苑生に白梅の花かぐわしく大君しのぶ八百年の香

大君のおわす雲居はやももとせ大和心を今に伝えて

菱浦の港に出でてあけぼのの霞を通し眺む故郷

かなしきは藻塩の煙夕煙月もしほの隠岐戻り船

潮の香の届く御苑に後鳥羽院のおはししを思ふはるけき昔を

八百年牛突き息波の音変わることなき帝への思ひ

八百年君か御歌は今もなほ島の眺めに光を沿ふる

ももしきや御垣の菊の玉散りて紫の庭夜半の月映ゆ

島かげに海士の釣舟濤曳きて都恋せし帝しのばゆ  
おほきみの隠岐の社にたたすめは岸の松枝にかへす白波

島根県出雲市

大谷香代子

東京都青梅市

井上喜音子

東京都調布市

佐合井 昇

秋田県大仙市

鈴木 仁

島根県松江

須田 芳子

千葉県習志野市

内田かつひろ

東京都青梅市

古賀のり子

群馬県高崎市

関 弘子

大阪府大阪市天王寺区

縁糸まどか

東京都杉並区

秋 風

東京都世田谷区

古河 章男

埼玉県狭山市

松岡 初枝

東京都立川市

西川 憲昭

長崎県長崎市

平山 恭子

熊本県八代市

松岡 直子

愛媛県松山市

井上由美子

長崎県佐世保市

宇野 聰子